

## すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	東京都新宿区市谷船河原町 1 番地
施設名	ぼけっとランド市ヶ谷保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

自然をテーマとした園の環境の強みは、外濠沿いに園があるため、四季の自然の変化を感じ、子どもの内的感情や感覚で経験した事を探求しながら表出していけるところが強みである。日常から散歩や園外保育の中で、子どもたちが目に触れる動植物に自然と興味、関心が向いていることを踏まえてこのテーマにすることを判断した。

### 2. 活動スケジュール

4月：春の自然に触れ、桜の花びらやたんぽぽといった自然物や蟻、だんごむしといった虫の生態に興味を持ち、関心が深められるような探究活動を行う。

5月：トカゲやてんとう虫といった昆虫や初夏の自然、たいようの日差しや光の変化を感じ、造形遊びで表現をする中で、生態や自然現象の変化を調べ、話し合う。

6月：雨季の自然現象に興味や関心を持ち、探求しながら仕組みを理解する。

7月：水遊びを通して水が変化する面白さや、光を通して変化を楽しみ、何故起こるのか考え表現する。

8月：夏の気温に興味を持ち、湿度や温度を知る。また、温度や湿度が自然界や人にどのような影響を与えるのか考えようとする。

9月：運動会の行事を通して、世界に目を向け、様々な国の文化に触れ、違いに興味や関心を持つ。

10月：芋ほり遠足を経験する事で、地中の植物に興味や関心を持ち、探求をしながら、絵画などの造形遊びで心で感じたこと、五感で経験した事を表出する。

11月：どんぐりやまつぼっくりを拾いながら、どのような木になっているのか、どの場所で育つのか、興味や関心を持ちながら、パソコンを使用して調べる。

12月：クリスマスや海外の文化に興味を持ち、調べた事をプロジェクターに映して話し合う。

1月：日本のお正月に興味を持ち、伝統行事に興味や関心を持ちながら、どのような遊びや食があるのかを調べる。

2月：冬の自然現象に興味を持ち、動物の世界の冬眠に関心を寄せ、何故冬眠するのかを話し合いながら、パソコンで調べたり、絵本を読んだりして考えを広げていく。

3月：品川水族館に行き、海や川に住んでいる動物を見る事で、様々な生き物が地球上で生きていることを知り、その環境や生態について調べ、話し合う。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

動植物及び自然現象の変化による探究活動 場所：公園や遊歩道で子どもたちが自身で気づけるような道順を選び設定した。準備物：図鑑、絵本、画材道具

食を通した自然の探求：場所 芋ほり遠足へバスで行った。準備物：パソコン、図鑑、絵本、画材道具

世界の文化を知る探究活動 場所：園内 準備物：パソコン、プロジェクター、図鑑、絵本、画材道具

冬の自然、水の中の生き物の探求 場所：品川水族館 準備物：パソコン、プロジェクター、図鑑、絵本、画材道具

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

動植物及び自然現象の変化による探究活動 植物の花びらの枚数や形を、図鑑を使って、花によって違う事を調べ、絵画や造形遊びを行った。

食を通した自然の探求 芋ほり遠足で芋を掘る事を経験し、地中でどのように芋が育っていくのかをパソコンで調べ、何故大きさや形が違う芋が出来るのか話し合った。また、画材道具を使用して表現活動を行った。

世界の文化を知る探究活動 パソコンで世界のクリスマスを調べ、違いを話し合った。行事によって自然も文化も違う事等を話し合う中で気づきや発見があった。プロジェクターも使用して、他文化の映像を見て、気づいた事を話し合った。また、画材道具を使用して、造形遊びを行った。

冬の自然、水の中の生き物の探求 パソコンやプロジェクターを使用して様々な冬の自然現象を知ると共に水の中でどのような生き物がどのような環境で生息しているのかを知り

品川水族館に行った。実際に見て不思議に思った事発見した事を話し合った。画材道具を使用して表現活動を行った。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

実際に体験し、触れる事でより細かな気づきや発見があった。

春の自然の探求では公園に行った際に蝶々が飛んでいて、たんぽぽの花にとまった様子を見ていた子どもたちから「蝶々はたんぽぽの花が好きなのかな？」という問いかけがあった。そこで保育者が「蝶々の好きなお花を探してみる？」と提案すると、子どもたちから蝶々がとまっていた花を集めて並べていた。しかし、並べた花には蝶々は集まってこなかった。

そこで、園に帰ってきてから保育者が図鑑をさりげなく子どもたちが目にする場所に置くことで、子どもたち自ら図鑑を開く姿があった。そこで、蝶々にも様々な種類があることを知った。種類だけではなく、蝶々がどのように生活をして何を食べて生きているのか興味を持った子どもたちは、園内で調べて、公園に行った時に蝶々の家やとまりやすい場所を考え想像しながら箱庭を作って、遊びを展開しながら関心を深めていった。

芋ほり遠足では、実際に土に触れる事で「先生、上の方は柔らかいけど、下の方は固いよ。どうしたら掘れるかな？」と同じ土でも場所によって硬度の違いに気づくことが出来た。それに対し、「周りから回すように掘ってみたらいいかもね。それともお友だちと一緒に蔓を引っ張ってみる？」という提案形で保育者が言葉掛けをすることで、子どもたちが自ら考えて「〇〇ちゃんは周りの土を掘ってみてね。私たちは協力して蔓を引っ張ってみるから。」と言って、芋を掘る事が出来た。その後も土の種類や芋の種類に興味を持った子どもたちは園に戻ってからパソコンを使い、土の種類や、芋の種類を調べていた。また、土の色や芋の色の違いも実際に見て、触る事で気づき、その後、表現遊びで絵を描いたり造形遊びの中で様々な素材を使って芋を作り、自分で感じた芋や土を表現していた。また、実際に芋を掘る事で、重さにも興味を持ち、秤を用いて重さを図ってみることで、数字への興味や重さの単位にも関心を持つ事が出来た。環境設定を行う事で子どもたちの視野も広がり、興味や関心も深まっていった。

水族館では同じ水槽の中にいる魚を見て保育者が「この水槽には小さな石があるね。この赤い魚は下の方にいるけれど、黒い魚は上の方にいるね。」という声掛けに対して

の魚は石は入れてないよ。」等魚の生態や環境、生態系に少し興味を持った様子が伺えた。様々な水槽を見る中で、子どもたちの中に何故この魚は同じ種類の水槽で、何故この魚は様々な種類の魚と一緒に水槽にいるのだろうか？という疑問が生まれた様子が見られたので、次の日から魚に関する図鑑や絵本、また SDGS に関する絵本を置いた環境構成にした。子どもたちが図鑑だけではなくパソコンで調べて魚にも相性があること、住みやすい環境が魚ごとで違う事、また魚にも役割があって、水槽を綺麗にする魚や、苔を食べる魚がいることを発見していた。また海や川の環境にも気づき、魚がプラスチック製品を食べてしまって苦しむ姿を絵本から見て、ゴミの分別や地球環境にも興味や関心が広がっていった。

冬の自然では公園に行った際に雪に触れ、その冷たさや溶けてしまう不思議さに触れた時に「どうして手にのせると溶けてしまうんだろうね。」という保育者が子どもたちに問いかける事で「手はあったかいからね。」と子どもたちが答えていた。するとそれを聞いていた他の子どもが「氷はなかなか溶けないよね。」ということ言葉をしていた。また、寒い中でもかまきりの卵を見つけた子どもがいて、「これは何かな？」の問いかけに保育者が「寒い冬でも暖かくかまきりの赤ちゃんが育っていけるように繭みたいにしたのかもね。」と答えると「この中にカマキリの赤ちゃんがいるの？」ととても驚いていた。子どもたちの冬に関する自然現象や生き物に対しての気づきから保育者が「雪」「氷」「水」「虫」に関する図鑑や絵本を環境構成の中に置くことで子どもたち自らが調べていき雪の結晶や自ら氷に変化する温度を知っていくことで、その美しさや数字に触れることが出来た。また、虫に関しては虫だけではなく、生き物全般に関して冬眠や冬ごもりについて、調べていた。「食べなくても眠っていると生きられるんだね！」という新たな気づきもあった。ここから春について自然が変化すると、自然界の変化が影響し、動植物にも変化が訪れることを保育者が話し、継続的な探究活動ができるようにしていった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

月毎にクラス担任と主任、園長と振り返りを行う中で、子どもによって、視点が植物であったり、虫であったり、自然現象であったりと様々なことに気づいた。その中でより探究活動が深まっていくように、個々の気づきに沿った環境構成を話し合った。